

大島子

戦後から昭和38年頃まで
千鳥貝・コノシロ漁で大いに賑わった。



6 いしぼとけ (大島子一町田)

島子城への道標。もともと二基あった。旅の安全守護神。雲仙岳噴火で津波がこの地点まで押し寄せてきたとの言い伝えもある。

7 むらつづみ (大島子地蔵面)

正式には村中堤(むらじゅうづみ)と呼ぶ。安永2年(1773)に、水利用地として中津川のはん濫防止を目的に造成された。

8 ミズハメノミコト (大島子地蔵面)

水神様。ミズハとは河童の古称。中津川のはん濫を防ぎ、村中堤の安全を祈願する。ミズハの化身を竜神という。

9 作神様 (大島子地蔵面)

作神とは農事一般の守護神。農神とも言い、以前は農民が春に花見を兼ねての例祭を行っていた。

10 島子城址 (大島子城の平)

中世期、上津浦氏⇒天草氏⇒志岐氏が領地とした変転の支城址。最後の城主は山川藤太郎(志岐氏家臣)と言われている。

11 松竹林庵跡地 (大島子二羽山)

寛保期(1741~1743)、御領芳證寺の蜜巖道国が八幡宮の裏に養生かたがた隠居して松竹林なる庵を建立。後の医王山大光寺。

12 翠樟亭 (大島子上)

三木屋を隆盛に導いた三代益田兼三郎は、甥の大助に家督を譲り、隠居して翠樟亭をつくる。多くの文人、墨客の来訪でにぎわった。

13 益田庄屋跡 (大島子入角)

郡内農民代表1千人の抗議(出米事件)で知られる。大銀主池田屋・三木屋は縁戚にあたり、天草でも指折りの裕福な庄屋であった。

14 寺子屋寂照庵跡 (大島子寺内)

文化文政期(1804~1829)に専念寺学僧釈大麟、弟山川淵一郎へと引き継がれた。安政元年(1854)から村医松田洞春によって庄屋利三郎塾と統合され、明治に至る。多くの逸材を輩出した。

15 猿田彦太神 (大島子寺内)

福の神・農耕の神で知られる。銀主生盛屋・宮崎傳藏子息の病氣平癒を祈願して建立したもの。

16 耕丸跡地・耕丸の井戸 (大島子入角)

大島子庄屋五代益田瑞右衛門は、私設金融業「耕丸」を開業。井戸は「耕丸の井戸」と呼ばれ往時の名残をとどめる。

17 銀屋 (大島子入角)

三好屋・諸国屋・池田屋等の「もとえ」、宮崎本家である。江戸期は銀細工工房・旅館業を営んだ。宿屋名が銀屋であった。

18 生盛屋別家跡 (大島子鬼塚)

宮崎傳藏の弟直吉が分家が新設した。広大な敷地は枸橘、珍竹(中国原産の蓬萊竹)に囲まれ豪華な私邸が建てられていた。

8 香谷嶋岸塚



香谷嶋岸塚



林兄弟墓碑



宮崎敬介石像



アコウ樹



大島子諏訪神社



19 東池田屋(役座)跡 (大島子鬼塚)
宮崎本家の商業活動の現場事務所であった。本家から独立して金貸し業も営んでいたと推測される。この地は後に庄屋益田家が移り住んだため役座とも呼ぶ。

20 池田屋本家跡 (大島子池田)
江戸期天草で五本の指に数えられる大銀主・大地主。島子のみならず八代・松島町合津まで広大な土地を所有していた。五代林太夫佳高から苗字帯刀を許可された。

21 郷倉(囲米)跡 (大島子池田)
飢きんの時の救済米として池田屋が自主提供した、囲い米の倉である。

22 生盛屋跡 (大島子江口)
遠祖は宮崎治郎右衛門。宮崎家伊吉が生盛屋初代で二代、三代傳藏のときに隆盛をさめたとされている。

23 三木屋新宅跡 (大島子江口)
三木屋二代目益田種造は本家を次男兼三郎に譲り、新宅を新設した。土木事業に専念し、後に楠新田を完成させる。新宅二代目種三(養子)もこの事業を引き継ぎ、松島町今泉新田を完成させた。

24 上三木屋跡 (大島子下)
郵便局跡で酒蔵もあった。三木屋開祖奥左衛門の三男恒太郎は上三木屋を創設したが、家督を孫の儀三郎に譲り、自らは雅号を花芯と称し、風雅を愛した。

25 三木屋本家跡 (大島子下)
池田屋と並び天草屈指の富豪。開祖益田奥左衛門は、庄屋四代治左衛門の継嗣ながら、身体が不自由なために庄屋職を20歳の時に弟に譲り、自らは織物業のほか、酒造・干拓・金貸し業も営み巨万の富を得た。

26 三好屋跡 (大島子野崎)
遠祖を池田屋と同じくし、海運問屋を営んだ。早世した三代八右衛門にはなく、永野九郎兵衛弟延貞を養子とする。九郎兵衛の父、治郎右衛門は迎月楼(後の対岳楼)を造った。

※①-⑧の番号は、島子お宝再発見事業で石柱を建てた場所です。また赤・黄の旗は名所・旧跡を表しています。